

日本人の愛国心の有無とその表れ方について

キム・ジョンギ

1. はじめに

日本人に国のことや政治に関することを質問したら、殆どの人が「分からない」と答えるため、日本人は現在の政府が行っていることや国際情勢には関心がないように見える。しかし、自分が住んでいる所の情報には明るい人が多い。まるで国と自分が住んでいる所は別のもののように見える。また、日本には地域毎に異なる名物がある。例えば、大分のカボスや博多の明太子、そして青森のりんご等である。日本では地域の特産物を開発し、自分の住んでいる地域が目立つように力を入れている。また、大分県臼杵市の「赤猫祭り」や杵築市の「お城祭り」のように、同じ県内でも地域によって異なる祭りがあり、地域行事の宣伝も盛んに行われている。テレビ番組でも他の国との比較や競争よりは、地域同士の競い合いがよく見られる。

一方、韓国人は老若男女を問わず国の動きや政府の政策に大きな関心を持っている。韓国人は地域よりも国のことを大事にしていると言えよう。勿論観光を主な収入源としている地域では地域の活性化のために観光商品や特産物の開発に力を入れているが、地域毎に行われる伝統的な祭りなどはなく、地域に対する関心は低い。韓国人は常に北朝鮮や日本との関係、そして韓国内の政治的な変化に関心を持っているため、ニュースや新聞で北朝鮮や日本に関しての情報に接すると、国全体がその話題で大騒動となる。それに、韓国の男性は一定の年齢になると必ず軍隊に行かなければならない。その結果、男性は自然と国のことを心配するようになる。国に対する関心がある男性の影響で、自分の息子を軍隊に行かせざるを得ない母親や姉妹、そして友達まで、軍隊に関する政府の動きに関心を持ち、ニュースや新聞に頻繁に接する。そのような関心から、政府の様々なことに敏感に反応しているのが韓国人である。そのため、韓国人から見ると、日本人は愛国心は持たず、自分が育った地域に対しての愛情、つまり、郷土愛のみを持っているように見える。

日本人の大学生に「愛国心を持っているか」と聞いたことがあるが、多くの者が「愛国心なんてないよ」と答えた。しかし、波多野他（1966）によると、どの国の国民にも愛国心はあるそうだ。本当に日本人は愛国心を持っていないのだろうか。本研究では、日本人の愛国心の有無とその表れ方を明らかにするために、まず、日韓両国の歴史的背景について述べ、その後、アンケート調査を行い、日本人の愛国心について考察を行う。

2. 地域のことを重視する日本人の歴史的背景

現在、日本は4つの島（北海道、本州、九州、四国）で構成され、47都道府県（1都、1道、2府、43県）の地方自治制度をとっている。しかし、江戸時代には現在の都道府県より更に細かく、藩、幕領、神宮領、飛び地領等に分けられていた（大分県教育委員会（2007））。林他（1995）によると、江戸時代の地方政治は江戸幕府より統治の許可を得た諸大名が土地統治を認められた封建体制であった⁽¹⁾。大名には幕府によりその格式に定められた参勤交代と御手伝い⁽²⁾が課せられた。これが大名貧困化の大きな原因となり、これを打開するために藩政改革が18-19世紀にかけて各藩で実施された。初期は倹約と藩札発布が主であったが、18世紀中盤になると塩・陶器などの土地産物の専売制がかなりの藩で実施された。出羽国（秋田県）の最上紅花、越後国（新潟県）の縮布等が例として挙げられる。つまり、地域の特産物は幕藩体制の諸国の重要な収入源であったのである。その時作られた特産物が今も残っている地域もある。例えば、高知県芸西村の白玉糖や千葉県久留里の楊枝作

りがある。このことから見ると、江戸時代の特産品作りの影響が現在まで続いているため、現代の日本人が地域のことを重視するようになったと言えるだろう。

3. 国のことを重視する韓国人の歴史的背景

なぜ韓国人の視点では日本人が愛国心を持っていないように見えるかを説明するため、韓国の歴史を見ていきたい。韓国は長い歴史の間、地理的な条件の影響で侵略されたことが多い国である。高句麗・新羅・百濟時代（4C-7C）には唐土（中国）の侵入があり、高麗時代（918年 -1392年）には元（モンゴル）の侵入があった。朝鮮時代（1392年 -1910年）以降は明、清、そして日本の侵略があった。このような近隣国の侵略が多かったため、地域別というよりは国としてまとめる必要があった。そのため、国に対する思い入れが強くなった。そして、1945年の独立以降、朝鮮戦争（1950年 -1953年）が勃発し、北朝鮮と韓国に分かれ、政府の指針として北朝鮮や共産主義に対する敵対心を高める愛国心教育が活発に行われるようになった。例えば、朝鮮戦争が終わった後、学校で北朝鮮を非難する歌を教えていたことや、軍人のような訓練を受けていたことである。それによって、韓国人は自分たちの知らない間に愛国心を持つようになった。韓国人の愛国心は強いと言われているが、政府によって養われた愛国心とも言われている。

4. 愛国心の定義

国語辞典によると、愛国心とは自分の国を愛する心である（松村他（1999））。また、波多野他（1966）は、その愛国心というものは自然に持つようになるものであるが、家族に対する愛の家族愛と自分が長い間住んでいる、もしくは長い間住んでいた地域に対する愛の郷土愛よりは薄い感情であるとしている。波多野他（1966）によると、自分を中心として家族愛、郷土愛、愛国心の順番で同心円を作ることができる。つまり、愛国心は最も範囲が広いが、家族愛や郷土愛に比べて薄い感情であると説明することができるとする。

5. 先行研究

これまで日本人の愛国心についての研究は、筆者の知る限りあまり行われてはいない。しかし、愛国心教育についての研究は活発に行われている（柿沼他（2004）、佐藤（1969）等）。大内（2007）によると、太平洋戦争の当時には、愛国心教育が軍国主義イデオロギーと結びついて実践された。そして第2次世界大戦が終わった後の1950年代には、アメリカが日本に防衛力を強化することを要求した。そのため、保守政権が愛国心と防衛力強化を結びつけようとしたが、教職員組合や市民運動などの革新勢力による強い反対運動が展開された。その結果、保守政権が意図していた愛国心教育の現場への徹底は不可能となった。しかし、2006年に「愛国心」を盛り込んだ教育基本法の改正が行われたことにより、愛国心教育がもう一度注目を浴びるようになった。つまり、戦時期には愛国心教育が行われていたが、終戦後から2006年以前までは、愛国心教育は行われていなかった。しかし、2006年の教育基本法改正を契機として愛国心というものが再び注目されるようになったことが分かる。それでは、愛国心教育を受けたことのない人には愛国心はないのか。そしてもし愛国心があるとしたら、世代別に感じている程度はどう異なり、いかなる形で表れているのだろうか。また、波多野他（1966）は愛国心というものは自然に持つようになるものであるが、家族愛と郷土愛よりは薄い感情であると述べたが、この定義は正しいのか。そこで本稿では、①日本人の愛国心の有無、②愛国心と郷土愛についての世代別の考え方、③愛国心と郷土愛を感じている程度、④愛国心の表れ方を明らかにするために、アンケート調査を行った。

6. アンケート調査

6.1. 質問項目

本調査では、日本人の愛国心の有無、愛国心と郷土愛についての世代別の考え方、愛国心と郷土愛を感じている程度、愛国心の表れ方を明らかにするため、三つのカテゴリーに分けて質問項目を作成した。その三つのカテゴリーとは、「国についての関心度」、「家族や自分の故郷（もしくは長く住んでいる所）」についての関心度、「国を思う心である。」「国についての関心度」を知るために、税金を払うことや全国紙を読むことについての質問を含めた。なぜなら、税金は国家または政府が国の様々な政策を実行するために、国民が負担しているお金であるからであり、ニュースや新聞（全国紙）は政府が何を行っているかについての情報が得られる媒体であるからである。「家族や自分の故郷（もしくは長く住んでいる所）」についての関心度」を知るためには、自分の故郷（もしくは長く住んでいる所）から有名人が出ることや、自分の故郷（もしくは長く住んでいる所）についての詳しい情報を知っていることについての質問を含めた。なぜなら、自分の故郷（もしくは長く住んでいる所）に関心があったら、自分が住んでいる所から出た有名人にも関心を持つようになり、自分の故郷（もしくは長く住んでいる所）についての詳しい情報を知することは、単なる関心のみではなく、本当に自分の住んでいる所について愛着を持っていることを示すためである。また、「国を思う心」を知るために、外国に行ったら、日本のことを紹介したいかという質問と、戦争が起きたら国のために戦いたいという質問を含めた。なぜなら、日本のことを外国に行って紹介することは、日本の名を広げることになり、国のために戦うということは、軍国主義に基づいた愛国心があることになるからである。表1にそれぞれのカテゴリーと質問項目を示す。

表1 愛国心の三つのカテゴリーと質問項目

国についての関心度	① 自分が愛国心を持っていると思うか。 ② 税金を払うのは当然だと思うか。 ③ よくニュースを見たり、新聞（全国紙）を読んだりするか。
家族や自分の故郷（もしくは長く住んでいる所）についての関心度	④ 自分の家族について愛情を感じているか。 ⑤ 自分の故郷（もしくは長く住んでいる所）について関心があるか。 ⑥ 自分の故郷（もしくは長く住んでいる所）から有名人が出たら、誇らしいか。 ⑦ 自分の故郷（もしくは長く住んでいる所）の名所や有名な食べ物をよく知っているか。
国を思う心	⑧ もし外国に行ったら、日本のことを紹介してあげたいか。 ⑨ もし戦争が起きたら、国のために戦いたいか。

6.2. 調査対象と実施時期

愛国心と郷土愛、そしてその表れ方を世代別に比較するため、日本人大学生男女10人と、30歳以上の日本人男女10人の2グループを調査の対象とした。大学生男女10人は、大分大学経済学部3年生で、内訳は男5人、女5人である。また、30歳以上の日本人10人は、中津市在住の方で、男5人、女5人、年齢は30代4人、40代4人、50代1人、60代1人である。まず、パイロット調査として2013年3月に両グループを対象にアンケート調査を実施した。そして、第2回目のアンケート調査は同じ人を対象として、同年4月に大学生グループ、5月に30歳以上のグループの調査を行った。

6.3. 実施の手順

パイロット調査は質問が 11 項目あり、質問に対する選択肢が五つ (1. とてもそうだ 2. そうだ 3. 普通だ 4. あまりそうではない 5. 全然そうではない) あった。しかし全ての質問に「普通」と記入した人が多かったため、曖昧な結果となった。また、分かりにくい質問があったことも分かった。これらの問題を解決するため、第 2 回目のアンケートでは、曖昧な質問の内容を変えたり、削除するなどして、最終的に表 1 に示した通り質問は 9 項目にした。また、「普通」という選択肢を除去し、選択肢を四つにした。また、2 回目のアンケート調査を実施した後、質問の内容をどのように理解したかをより詳しく調査するため、アンケート調査に回答した人に個別に電話をかけ、個人インタビューを行った。

7. アンケート調査の結果

以下、第 2 回目のアンケート調査の結果について述べる。

7.1. 国についての関心度

まず、「①愛国心を持っていると思うか」という質問に対して、まだ社会に進出していない大学生の中には、「全然そうではない」と答えた人もいるが、既に社会で様々な活動をしている 30 歳以上の人々の中には、「全然そうではない」と答えた人は一人もいなかった。そして、大学生は「とてもそうだ」と答えた人はおらず、「そうだ」と答えた人が全体の 40%であるが、30 歳以上の方は「とてもそうだ」と答えた人が 30%、「そうだ」と答えた人が全体の 50%となっている (図 1 参照のこと)。

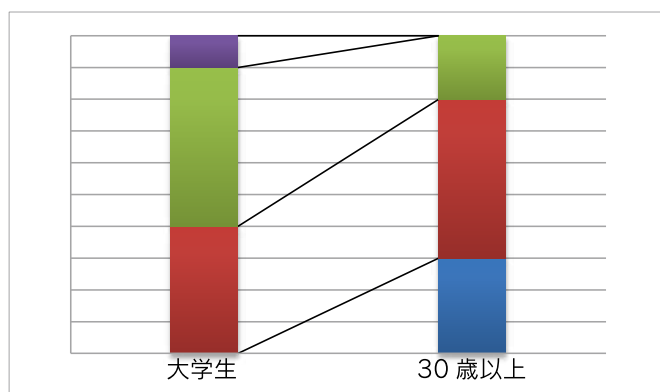


図 1 愛国心を持っていると思うか

次に「②税金を払うのは当然だと思うか」と言う質問については、両グループ共好意的であった。大学生グループは 50%が「とてもそうだ」と、40%が「そうだ」と答えたが、30 歳以上のグループは「とてもそうだ」と答えた人が 40%、「そうだ」と答えた人が 40%であった (図 2)。

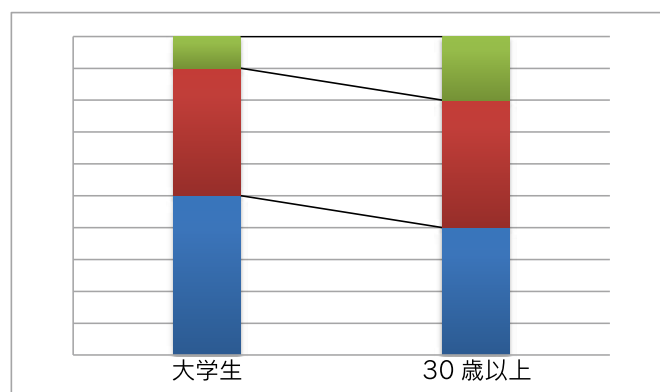


図 2 税金を払うのは当然だと思うか

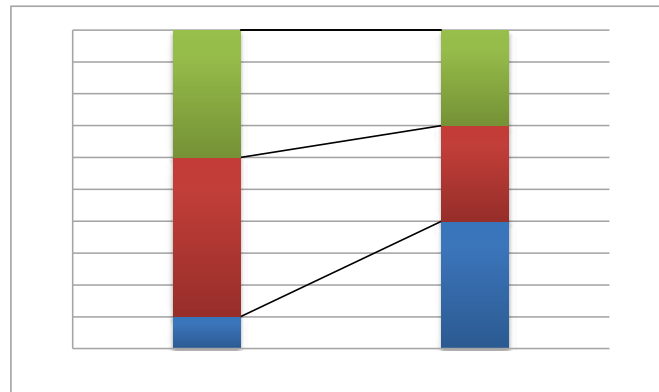


図3 よくニュースを見たり、新聞（全国紙）を読んだりするか

「③よくニュースを見たり、新聞（全国紙）を読んだりするか」という質問について、「とてもそうだ」と答えた大学生は 10%しかいなかったが、30 歳以上の人々は全体の 40%が「とてもそうだ」と答えた。そして、「そうだ」と答えた人の比率は大学生グループが 50%、30 歳以上のグループが 30%であった（図 3）。

7.2. 家族や自分の故郷（もしくは長く住んでいる所）についての関心度

「④自分の家族について愛情を感じているか」という質問に対して、両グループ共「とてもそうだ」と答えた人が 50%、「そうだ」と答えた人が 50%と同じであった。「あまりそうではない」や「全然そうではない」と答えた人は両グループ共一人もいなかった（図 4）。

次に、「⑤自分の故郷（もしくは長く住んでいる所）について感心があるか」という質問について、アンケートに回答した全員が肯定的な答えを選択した。大学生グループは全員が「そうだ」と答え、「とてもそうだ」と答えた人はいなかった。しかし 30 歳以上のグループは「とてもそうだ」が 90%、「そうだ」が 10%だった。これから見ると、30 歳以上の方が大学生より更に故郷（もしくは長く住んでいる所）に関心があるということが分かる。（図 5）。

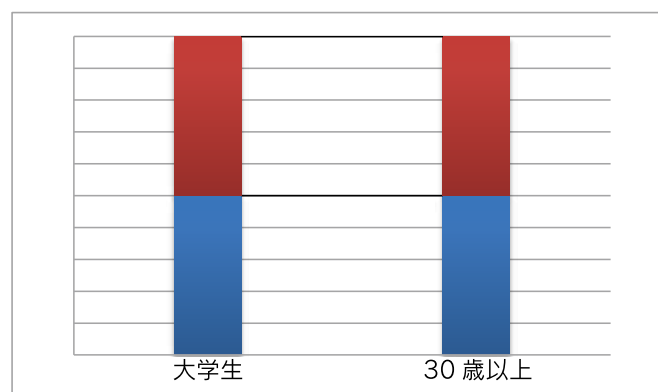


図4 自分の家族について愛情を感じているか

（図 5 は次のページに）

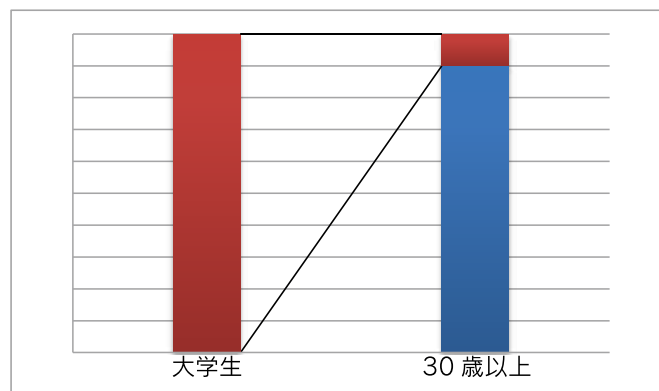


図5 自分の故郷（もしくは長く住んでいる所）について関心があるか

しかし、「⑥自分の故郷（もしくは長く住んでいる所）から有名人が出たら、誇らしいか」という質問に対しては、大学生の方は全員が「とてもそうだ」や「そうだ」と答えたが、30 歳以上のグループは 40%が「とてもそうだ」と、30%が「そうだ」と答え、両グループ共有名人が出ることに関心があることが分かった（図 6）。

「⑦自分の故郷（もしくは長く住んでいる所）の名所や有名な食べ物をよく知っているか」という質問については、大学生は「あまりそうではない」と答えた人が全体の 50%であるが、30 歳以上の方は「とてもそうだ」と答えた人が全体の 50%である。つまり、30 歳以上の人々の方が自分の故郷（もしくは長く住んでいる所）の名所や名物に詳しいと言えるだろう（図 7）。

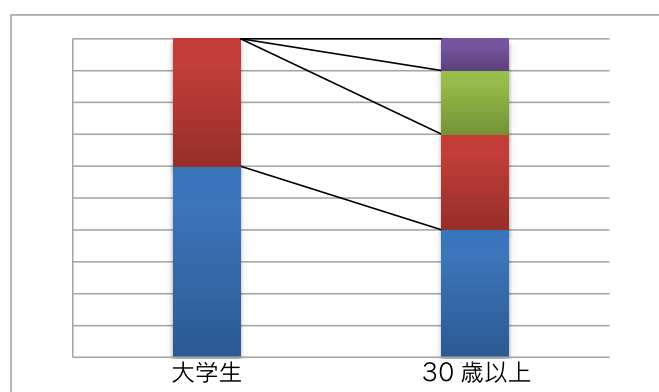


図6 自分の故郷（もしくは長く住んでいる所）から有名人が出たら、誇らしいか

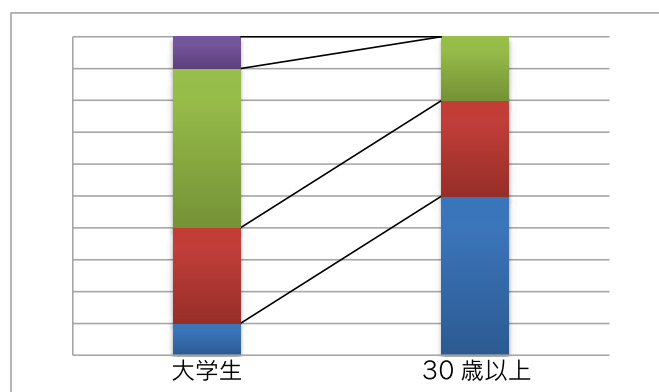


図7 自分の故郷（もしくは長く住んでいる所）の名所や有名な食べ物をよく知っているか

7.3. 国を思う心

まず、「⑧外国に行ったら、日本のことを紹介してあげたいか」という質問に対して、大学生は「とてもそうだ」と答えた人が 20%、「そうだ」と答えた人が 70%である。30 歳以上の人々は「とてもそうだ」と答えた人が 60%、「そうだ」と答えた人が 30%である。肯定的な回答をした割合は両グループ共、90%であったが、30 歳以上の方が日本のことを紹介したいとより強く思っていることが分かる（図 8）。

「⑨もし戦争が起きたら、国のために戦いたいか」という質問に対しては、大学生も 30 歳以上の人も国のために戦争に参加したいと答えた人は一人もいなかった。「全然そうではない」の比率が 60%の大学生グループに比べ、30 歳以上のグループは「全然そうではない」と答えた人が全体の 40%であった。30 歳以上の方より大学生の方が戦争について否定的だということが分かる（図 9）。

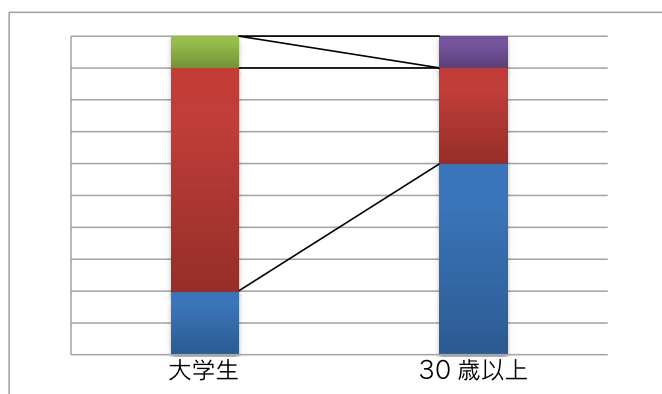


図 8 もし外国に行ったら、日本のことを紹介してあげたいか

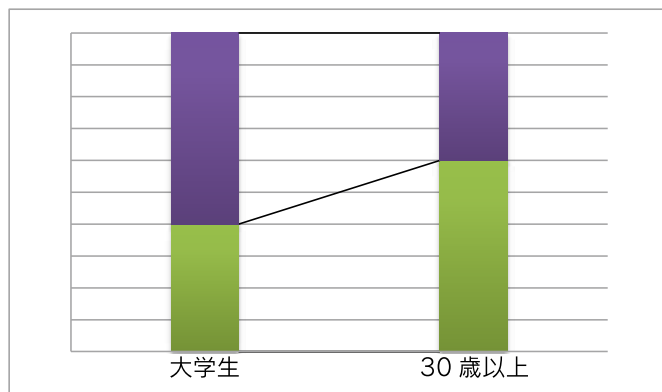


図 9 もし戦争が起きたら、国のために戦いたいか

8. アンケート調査の考察

まず、国についての関心度を調べるために聞いた「愛国心を持っているか」に対する回答を見ると、大学生グループの 40%と 30 歳以上のグループの 80%が愛国心を「(とても)持っている」と答えた。この調査を行う前に大学生に「愛国心を持っているか」と直接聞いた時、「愛国心はない」と多くの者が答えたため、大学生グループの回答は予想外であった。この結果から見ると、30 歳以上のグループでは多くの人が愛国心を持っていると思っている人が存在しているということが分かった。また、税金を払うことについては、「(とても) そうだ」と答えた人は大学生グループ全体の 90%、30 歳以上のグループの 80% であったことから、ほとんどの日本の国民が税金を払うことについて異義はないということが分かった。次のニュースや全国紙によく接するかという質問の回

答は、大学生グループの 60% と 30 歳以上のグループの 70% が「(とても) よく接する」であった。この結果を通して、国のことについての情報をニュースや全国紙を通じて得ている人がかなりいるということが分かった。以上のことから世代別にその程度は異なるが、日本人は思ったより愛国心を感じている人が多く、税金を払うことに好意的であり、ニュースや新聞をよく読んでいる日本人は、国のことについてもかなり関心を持っているということが明らかになった。

2 番目のカテゴリーの家族や自分の故郷（もしくは長く住んでいる所）についての関心度についての調査結果から、日本人の家族愛と郷土愛のことが分かった。まず、家族への愛情の有無については、両グループ共 100% が「(とても) 愛情がある」と回答した。この結果から、日本人は家族愛を強く感じているということが分かった。そして自分の故郷（もしくは長い間住んでいる所）への関心の度合についても、両グループ共 100% が「(とても) 関心を持っている」と答えた。この結果は予想通り、日本人の強い郷土愛を示している。次の自分の故郷から輩出された有名人についてどう思うかという質問には、大学生グループの 100% と 30 歳以上のグループの 70% が「(とても) 誇らしい」と回答した。この結果は日本人には郷土愛があるため、自分の故郷からの有名人にも関心があると解釈して良いだろう。このカテゴリーの最後の質問である自分の故郷の名所や名物について詳しく知っているかどうかについては、大学生グループの 50% と 30 歳以上のグループの 80% が「(とても) 詳しく知っていると思っていた。これは自分の故郷（もしくは長い間住んでいる所）に対する高い愛着を示している。以上をまとめると、日本人は家族への強い愛情を持っていることと、強い郷土愛を持っているため、自分の故郷（もしくは長い間住んでいる所）の名所や名物と自分と同じ故郷（もしくは長い間住んでいる所）から排出された有名人にも大きな関心があることが分かる。そして、最初の愛国心を持っているかという質問に対して、大学生グループの 40% と 30 歳以上のグループの 80% が持っている」と答えた反面、自分の故郷に関心があるかについての質問には両グループ共 100% が関心を持っていると回答したことは、波多野他 (1966) の述べたとおり、日本人は愛国心より郷土愛を強く感じていることを明らかにしている。

最後のカテゴリーの国を思う心についての回答は、現代の日本人の考え方を示している。まず、「外国に行ったら日本のことを広めたいか」という質問に対しては、両グループ共 90% が「(とても) そうしたい」と答えた。これは、現代はオリンピックやワールドカップのように武力を使用しなくても国の名を広げることができる時代であるため、戦争に反対し平和的な方法で国の力を見せようとしているからだと思う。更にインタビュー調査で詳しく調べたところ、大学生グループにはこの質問の「日本のこと」という言葉に、自分の出身地のことや長い間住んでいる所のことを含めて考える人がいた。なぜなら、日本のことについて聞かれた場合、最初は日本という国のイメージが強い桜や着物、侍などについて話し出すかも知れないが、詳しいことについて紹介する場合には、自分の住んでいる所のことについて話してしまうからだという。そして、日本国内の他の所に行っていない人にとっては、「日本のこと」というのは自分が住んでいる所のことになるからであろう。このような考え方から見ると、郷土愛を愛国心のように国を紹介する場面でも発揮している。そのため、郷土愛を愛国心の表れ方の一つだと言っても良いだろう。次の「国のために戦いたい」という質問に両グループ全員が否定的であったが、これは愛国心はあるものの、戦争では戦いたくないという日本人の姿を表わしている。もし、韓国人に同じ質問をしたら、国のために戦うと答える人が多数いると思われる。日本国憲法第 9 条 1 項には、「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」と表記されており、戦争で戦いたくないのは、憲法の影響を受けているためもあると推測される。

世代別の考え方を比較すると、大学生グループは 30 歳以上のグループに比べて国に対して愛国

心を持っていると答えた人が少なかったが、郷土愛は 30 歳以上のグループとほぼ同じぐらい持っている。外国に行ったら日本のことを紹介したいと考えている割合も両グループ共ほぼ同じである。戦争についても同じように否定的である。しかし、30 歳以上のグループは国のことにも地域のことにも大学生グループより関心が高い。このような結果は、大学生グループが自分や、自分の身の回りのことに関心を持っていることや 30 歳以上の人よりは人生の経験が少ないため、国のことを考える余裕がないという考え方を示している。一方、30 歳以上は自分の経験に基づき様々なことを考えられるから、国のことに関心を持つ余裕があるのだろう。このように両グループの考え方は同じことも異なることもあるが、特に愛国心を持っているかという質問については世代別に考え方が非常に異なることが明らかになった。

アンケートの結果から見ると、日本人の愛国心の表れ方は、国に対する関心と高い郷土愛、日本のことを広めたい気持ち、そして戦争に参加したくない気持ちだと言えるだろう。日本のことを紹介する時、自分の故郷（もしくは長い間住んでいる所）のことを紹介することは愛国心でもあり、郷土愛でもある。自分の国のことを紹介するというのは、国についての関心がないとできないものである。また、自分の故郷のことを含めて日本のことだと紹介するのは、郷土愛の表れである。そして戦争について否定的であるのは、現代の日本社会で戦争に参加することは愛国心の表れだと思われていないためだと言えるだろう。平和的な方法で日本のことを広めることができるのに、戦争に参加して国の名を広めるのは時代錯誤的な発想であるからだ。

9. まとめ

日本人は強い家族愛と強い郷土愛を持っている。そして、愛国心を持っている人は思ったより多かった。故郷（もしくは長い間住んでいる所）に対する関心度が高いため、自分の故郷（もしくは長い間住んでいる所）の名所や名物も詳しく知っている人が多く、自分の故郷（もしくは長い間住んでいる所）から排出された有名人にもかなり関心があった。また、愛国心を持っている人が少なからず存在するため、国のことに関心を持っている人も存在している。日本のことを外国に行って紹介する時は、日本全体を代表するものは勿論、自分の故郷（もしくは長い間住んでいる所）のことを含めて紹介する大学生も多数いた。そして、国のために戦いたくない気持ちを持っている人も数多くいた。愛国心についての考え方は、大学生グループの方が 30 歳以上のグループの方より愛国心を持っていないと答えた人が多かったことから、大学生グループと 30 歳以上のグループは異なる考え方を持っていることが確認できた。愛国心を持っていると思うことだけが愛国心だとは言えないが、国のことに対する関心、強い郷土愛、日本のことを世界に広めること、そして戦争に参加したくない気持ち、この全てが愛国心の表れ方だと言えるだろう。現代においてはこのようなことが愛国心の表れと言えるだろうが、愛国心というのは時代別に異なる形で表れるものである。例えば、他の国の植民地になった時は独立のために戦うことが愛国心であり、戦争の時は自分の国を勝利へ導くことが愛国心ではないだろうか。そこで、今後の課題として、時代による愛国心の表れ方を調査したいと思っている。

注

- (1) 諸大名が土地統治をするのは原則的に一代に限られる。
- (2) 御手伝いの義務とは、戦争が起こった時、一定数の武装した兵士を出陣させる義務である。

参考文献

- 大内裕和 (2007) 『愛国心と教育』 (日本図書センター)
柿沼昌芳、永野恒雄 (2004) 『「愛国心」の研究』 (批評社)
波多野述磨、間瀬正次 (1966) 『道徳教育愛国心』 (東洋館出版社)
佐藤幸治 (1969) 『愛国心』 (至文堂)
大分県教育委員会 (2007) 『おおいたの歴史と文化』 (大分県教育委員会)
松村明、佐和隆光、養老孟司 (1999) 『新辞林』 (三省堂)
林玲子、大石慎三郎 (1995) 『流通列島の誕生』 (講談社)

付録

アンケート

性別 (男、女)

年齢 (歳)

1. とてもそうだ。 2. そうだ。 3. あまりそうではない。 4. 全然そうではない。

- 1) あなたは自分が愛国心を持っていると思いますか。

1 2 3 4

- 2) あなたは自分の家族について愛情を感じていますか。

1 2 3 4

- 3) あなたは自分の故郷 (もしくは長く住んでいるところ) について関心がありますか。

1 2 3 4

- 4) あなたは自分の 故郷 (もしくは長く住んでいるところ) から有名人が出たら、誇らしいですか。

1 2 3 4

- 5) あなたは税金を払うのは当然だと思いますか。

1 2 3 4

- 6) あなたは自分の故郷 (もしくは長く住んでいるところ) の名所や有名な食べ物をよく知っていますか。

1 2 3 4

- 7) もしあなたが外国に行ったら、日本のことを紹介してあげたいですか。

1 2 3 4

- 8) あなたはよくニュースを見たり、新聞 (全国紙) を読んだりしますか。

1 2 3 4

- 9) あなたは、もし戦争が起きたら、国のために戦いたいですか。

1 2 3 4